

資源管理型漁業推進総合対策事業調査

2. 広域回遊資源：太平洋北ブロック 第Ⅰ期 ヒラメ

(抄 録)

藤 川 義 一 ・ 原 子 保 ・ 高 梨 勝 美

は じ め に

資源管理実施後のヒラメの資源動向を把握する。

材料及び方法

漁獲統計調査

太平洋海域におけるヒラメの月別漁法別漁獲量を地域別に調べた。

標本船調査

刺網船、小型底曳網船の標本船を設定し、各標本船から得られた操業日誌を基に各海区におけるCPUEを求めた。

調査船調査

太平洋沿岸において水深別・目合別に刺網を設置し、漁獲試験を実施した。

結果及び考察

漁獲統計調査

青森県のヒラメの漁獲量は1996～1973年まではやや増加傾向であり、1973年には1,500トンと最も多い値を示した。その後、1980年にかけて高水準を維持したものの、1981年以降から急激な減少傾向を示し、1989年には200トンとなった。1990年以降は増加傾向を示し、1997年には1,320トンまで増加した。1998年は1,240トンであった。

太平洋地区では9～12月に、津軽海峡、陸奥湾地区では6、7月及び11、12月に漁獲が多い傾向が認められた。

漁法別では刺網、小型底曳網、小型定置網漁業による漁獲が多かった。

標本船調査

CPUEは太平洋地区では8月に刺網漁場で高い様子がみられ始め、9、10月には最も高くなり、11月以降には徐々に低く推移した。小型底曳網漁場では11月以降高くなり始め、12月にはさらに高く推移した。これらの個体の多くは1齢の小型個体であり、9、10月に接岸し、11月以降沖へ移動することが推察された。

調査船調査

ヒラメは3寸3分、3寸5分目の網で多く漁獲され、漁獲サイズのモードは27～29cmと小型であった。4寸目以上の網では大型サイズの個体が漁獲されたものの、漁獲尾数は少なかった。しかし、大型魚は単価が高く、重量も重いことから、大型魚が多く漁獲された三沢市地先では4、5寸目の網でも漁獲金額は高く試算された。

三沢市地先では八戸地先と比較して、大型魚の漁獲割合が高かった。この理由の一つには、三沢市地先に設置された人工礁に対するヒラメの蛸集効果が予想された。